



計量分析室 政策企画専門職
宮城 衛人 (4年目)
 Miyagi Hiroto
 平成29年 採用
 政策統括官(経済財政分析担当)付
 参事官(総括担当)付
 平成30年 政策統括官(経済財政分析担当)付
 参事官(企画担当)付
 令和元年 計量分析室
 令和2年 現職

計量分析室
村田 佑介 (3年目)
 Murata Yusuke
 平成30年 採用
 政策統括官(経済財政運営担当)付
 参事官(経済対策・金融担当)付
 政策統括官(経済財政運営担当)付
 参事官(国際経済担当)付
 令和2年 現職

お二人の現在のお仕事について教えてください。

宮城係長 計量分析室は、経済再生と財政健全化に関する政策の検討に資するために、将来の経済・財政の姿を展望する「中長期の経済財政に関する試算」を作成し、取組の進捗評価や議論の基礎となるデータの提供を行うことを主な業務としています。この中長期試算は、2000を超える推計式から成るマクロ計量モデルを使って作成しており、マクロ経済、国・地方の財政、社会保障など、モデルを構成する各ブロックを室員が分担して管理しています。

私は財政ブロックの担当として、国や地方の財政に関するデータや制度変更をモデルに反映させるとともに、財政を所管する財務省や総務省へのヒアリング等を踏まえて、現実に即したモデルとなるよう改良を行っています。

村田係員 私はマクロ経済ブロックを担当しており、直近の経済状況を推計に反

映させるべく、国民経済計算(いわゆるGDP統計)を始め、日々更新される様々な経済指標をフォローしているほか、より良い推計ができるよう、経済理論等も踏まえてモデルの改良を行っています。

係長から見た係員について教えてください。

宮城係長 係員の時には、自分に割り振られた業務をこなしていくことに注力していましたが、係長になると、自分の担当だけでなく、室内全体の業務を円滑に進めるという点も意識して対応することが求められます。中長期試算は、試算に必要なデータが揃ってから試算結果を公表するまでの期間が1か月もないことが多いため、短期間で集中して作業を行う必要があります。限られた時間の中で、いつまでに推計作業を終わらせる必要があるのか、幹部や関係者への説明をどのように進めるのか、公表に際してどのような事務手続きが必要になるのかなど、公表に至

るまでのスケジュールを整理し、試算作業を遅滞なく進められるよう努めています。村田さんには、担当ブロックの推計作業に加え、各種日程調整や幹部への説明資料の準備など多くの面でサポートしてもらっています。村田さんは担当のブロックやモデルについてとても熱心に勉強していて、着任後早くから試算作業に対応してくれています。事務的な業務のサポートについても、私の指示が無くても自分で考えて先回りして準備してくれるなど、とても頼りになる存在です。



CAREER PATH

係員級

係長級

課長補佐級

課長級

係員から見た係長について教えてください。

村田係員 室内の業務には、国会対応をはじめ、極めて短時間での対応求められるものがある一方、中長期試算の作成やそれに向けたモデルの改良など、比較的長い期間をかけて検討・対応するものもあり、業務の優先順位を考慮して対処する必要があります。こうした様々な業務を並行して処理する必要がある中で、行き違いが生じないよう、対応方針や作業の進捗をこまめに報告するように心がけています。

宮城係長からは、作業上行き詰まった際だけでなく、業務の対応方針やプロセスについてもアドバイスをいただけるので、スムーズに作業を進めることができます。また、忙しい時でも丁寧に相談に乗って下さるので、目の前の作業で手一杯になりがちなところをいつも助けていただいています。隣で仕事をされている様子を見ていても見習う点が多く、日々勉強になることばかりです。

印象に残っている仕事について教えてください。

村田係員 やはり中長期試算の作成です。室員が分担している経済モデルの各ブロックは相互に密接に関連しているため、試算に当たっては室内一丸となって集中的に作業を行う必要があります。ハードな作業ではありましたが、その分、公表まで至ったときの達成感は非常に大きなものでした。

経済モデルから得られた試算を政策立案に活かしていくためには、ただ結果を提示するだけでなく、「なぜそうなるのか」と背後に働くメカニズムを理解した上で説明していく必要があります。このためには各種の制度や経済学の知見が必要となり、まさしく専門性が求められているのだと改めて感じました。

宮城係長 私はこれまで3回の試算を経験しましたが、特に印象に残っているのは2020年7月の試算です。新型コロナウイルス感染症拡大の影響による経済の落ち込みや、補正予算による巨額の財政支出により、足下の状況が過去に大きく大幅に

動する中で、どのように推計を行うべきか、室内で検討を重ねました。従来通りの方法ではうまく推計できないものも多く、いつも以上に大変な作業となりましたが、将来の不確実性が高い未曾有の危機の中であっても、政府として将来の経済・財政の見通しをしっかりと示すことの重要性を実感しました。



係長・係員の一日の流れ



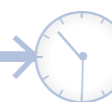
09:30

宮城係長

共有された関係部局の国会答弁の内容を確認。試算に関連するものや、今後の答弁作成の参考になるものがないかチェック。

村田係員

新聞などの報道を確認。経済指標や財政・社会保障など試算に関連する情報があれば、室内にも共有。



10:30

宮城係長

村田係員

それぞれの担当ブロックで最新のデータをモデルに反映して、試算を行う。データの更新による試算結果の変化を確認し、適切に推計できていない箇所があれば、データや推計式を見直して再度試算。



13:30

宮城係長

財政に関する制度改正について、関係省庁にヒアリング。改正内容を試算に反映した場合の影響について、ヒアリング結果をもとに検討。

村田係員

中長期試算に関する外部からの問い合わせに対応。プライマリーバランスの定義や推計方法などについて、わかりやすく説明。

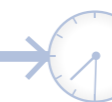


15:00

宮城係長

村田係員

国際機関に対して日本の経済・財政の見通しを説明するための準備を行う。係長は先方の質問事項に対する回答案を作成、係員は説明資料の英訳版を作成する。日本政府の考えが正しく伝わるよう、英語の表現にも注意する。



19:30

宮城係長

村田係員

試算結果を図表などに整理して上司に説明。理論や制度に基づいて結果の解釈について議論する中で、精査すべき課題を共有。上司からの指摘も踏まえて追加的な分析を行い、試算を精緻化していく。



20:00

宮城係長

村田係員

今日の作業の進捗を踏まえて、明日以降の試算作業のスケジュールを室内に共有。国会の状況を見て、本日中の対応の可能性が無いことを確認し、退庁。



政策統括官(沖縄政策担当)付
参事官(企画担当)付主査付
高田 まり (3年目)
Takada Mari
平成30年 採用
大臣官房政府広報室
企画担当主査付
令和元年 現職

政策統括官(沖縄政策担当)付
参事官(総括担当)付総括担当主査
田中 裕太郎 (5年目)
Tanaka Yutaro
平成28年 採用
政策統括官(防災担当)付
参事官(総括担当)付
総括担当主査付
同年 消費者庁表示対策課
平成30年 大臣官房企画調整課総括係
併 同課合理的根拠政策立案
推進室室員
令和元年 大臣官房企画調整課総括係
併 同課合理的根拠政策立案
推進室主査
同年 現職

お二人の現在のお仕事について
教えてください。

田中係長 沖縄政策担当は、沖縄の自立的発展や豊かな住民生活のため、沖縄振興局や関係省庁等と連携しながら、国の責務として沖縄振興策を進めています。

私は、組織の総括係長として、広く沖縄政策全般を見渡し、各担当のそれぞれの施策が円滑に進むよう後押しするため、常に様々な情報に高くアンテナを張り、随時、必要な情報を各担当者や幹部に共有するとともに、組織内外の様々な関係者との「調整」を行っています。また、対外的な説明や各種資料の作成、各担当の成果物の審査等も重要な業務です。

高田係員 私は、沖縄振興の基盤である沖縄振興特別措置法を所管する企画担当の係員として、この10年間の沖縄振興の検証作業を担当しています。振興計画の策定主体である沖縄県の取りまとめ課と意見交換を重ねて数百ページのデータ資

料を作成し、これを基に、検証の手法等について上司と同僚と試行錯誤する毎日です。各種資料を作成し部局内の各担当や関係者と調整を進める中では難解な論点が出てくることも多々ありますが、係員だからこそ動きやすいことも強みにしながら、日々目の当たりにする先輩方の円滑な調整を真似て、要点を明確かつ丁寧に説明すること、常に落とし所を見据えることを心掛けて励んでいます。

印象に残っている仕事について
教えてください。

田中係長 沖縄政策担当は、各部署で沖縄の地元からの出向者も多く、全体的に明るい雰囲気、部署間の風通しも大変良いです。私がいる総括担当参事官室は、記者や一般の方からの問合せも多くいただきますが、最近、令和3年度末に期限を迎える沖縄振興特別措置法の「その後」について訊かれることが多く、すぐに隣の部屋にいる高田さんに相談できるのは



大変心強いです。令和2年9月の内閣改造後、沖縄担当大臣や官房長官が初めて沖縄を訪問した際、協力して各種資料を作成したのが特に印象に残っています。

高田係員 田中さんのおっしゃるとおり、私たちの職場は地元からの出向者も多く、話を聞いているだけで沖縄へ旅行した気分になれる、知らない世界を知る楽しさに改めて気づかされる毎日です!

印象に残っているのは、やはり現行沖縄振興の検証作業です。内閣府職員としてこの時期に配属されたからこそ経験できた密な時間ですし、この業務は特に総



括担当と連携することが重要になるので、細かな相談にも乗ってくれる田中さんの存在はやはりとても大きいです。

係長から見た係員について教えてください。

田中係長 私が最初に配属された防災担当の係員では、平成28年熊本地震の対応など、上司のサポートを受けながら、目の前の業務をこなすのに必死でした。しかし、その経験を活かし、今は係長として、より全体のスケジュール感や幹部の思考回路、様々な関係者の考え方なども頭に置き、円滑に業務を進められています。

また、次に配属された消費者庁では、広告表示の適正化のため、消費者意識調査を企画したり、各種表示のルールの素案を作成したりする機会に恵まれました。係員ながら、自分の発想や取組が「社会に付加価値を与えている」と強く実感できた経験でした。

この点、現在、高田さんは、まさに自ら関係者への取材や調査の企画を行い、沖縄振興策の検証・検討について熟考する姿を日々拝見しています。当然、「今後の沖縄振興」というテーマは高度な議論が求められますが、それを支えるデータの整理・分析や資料の作成といった業務の質が、より良い施策展開に確実に活かしてくると思っています。息の長い地道な作業・調整が続く面もありますが、高田さんは、それらも根気強くこなし、着実に知識を吸収することで、幹部からも信頼を得ており、非常に頼りになる存在です。

係員から見た係長について教えてください。

高田係員 係員は業務経験が浅い分、

出会う仕事は初めての連続で戸惑うことも多々ありますが、だからこそ、どれだけ吸収できるかが大事だと思っています。断片的と思える情報も積み重ねればいつか活きるときが来るでしょうし、日々の業務においても、上司の考え方を感じ取れるようになれば、先を見据え余裕を持って進められるようになります。上司同士の会話に意識して耳を傾けたり、聞いておいた方が良いかと思う話があれば迷わず自分もその場に同席するなど、チャンスは無限にあります。深くは分からずとも、「その話一度聞いたことがある」という引出しをいくつ持てるかは、係長になってからも大きな味方になってくれると想像します。

内閣府の役割は総合調整と言いますが、実際にこれをするのは人。田中さんのお仕事を近くで拝見して、係長や係員ができる総合調整がどういふことか、鮮明にイメージできるようになりました。また、よく先輩方から「2つ上の役職の上司が何を考えているか想像しながら仕事をするといふよ」と聞くのですが、田中さんご自身アンテナ高く迅速柔軟に対応されているのはもちろん、後輩への目配りも行き届いていて、チーム力を最大化することを体現されている点を特に尊敬しています。

私も間もなく入府4年目となり係長級の職員となるので、田中さんのように柔軟な対応力を身に付け、チームで仕事をするからこそ生み出される相乗効果を大切に、周りを引っばっていきける存在になりたいと思っています。



係長・係員の一日の流れ

09:00 >>>田中係長
地元紙などの報道を確認し、必要な情報を担当課や幹部に報告。必要に応じて、大臣記者会見の想定問答を作成または担当課に作成を依頼。

10:30 >>>高田係員
総括担当からの急ぎの対応依頼があれば、優先的に対応しつつ、翌日の幹部説明資料を作成。ある程度の段階で一度早めに上司の確認を仰げるよう、「〇〇時までにご自分で仕上げる」と自分で作業の締切時間をこまめに設定。

12:00 >>>田中係長
赤坂で同僚とランチ。個人的に好きなパンを買ってくることも多い。

13:00 >>>高田係員
面倒見のいい先輩が時々ランチに誘ってくれることも。楽しくてあっといふ間の1時間。アドバイスも沢山もらい、よし頑張ろうと職場に戻る。こんな日は午後の業務が捗るばかり。

17:00 >>>田中係長
新規事業について担当者との打合せ。総括担当として、文書審査や手続きのサポートを行うとともに、政策の論点をよく詰める。

19:30 >>>田中係長
この日に沖縄県が発表した案件について、翌日の沖縄担当大臣の記者会見で質問を受けることを想定し、係員が応答要領の案を作成。内容をチェックし、幹部や大臣秘書官に了解を得る。

>>>田中係長
退庁前に、部局内の2週間程度程度のスケジュールを自分の中で確認。部下が残業していた場合、業務量や進捗状況を確認し、退庁。

>>>高田係員
上司が退庁する前に、業務の進捗を報告し、翌日以降の進め方のイメージを共有。その日のうちに完了させておきたい業務があれば、一休みしたうえで取り掛かる。今日も帰り際に同僚と沖縄の話で盛り上がる。また新しい方言を覚えられた!



政策統括官(経済財政運営担当)付
参事官(総括担当)付参事官補佐

権田 直 (17年目)
Gonda Tadashi

平成16年 採用
政策統括官(経済社会システム担当)付
参事官(総括担当)付

平成17年 市場化テスト推進室
平成18年 官民競争入札等監視委員会事務局
平成19年 国土交通省国土計画局
総合計画課計画第一係長
企業再生支援機構担当室主査

平成21年 計量分析室参事官補佐
平成23年 政策統括官(経済財政分析担当)付
参事官(総括担当)付参事官補佐
平成24年 政策統括官(経済財政分析担当)付
参事官(総括担当)付参事官補佐

平成27年 経済社会総合研究所
国民経済計算部
国民支出課課長補佐

平成28年 (独)日本貿易振興機構
ニューヨーク事務所ディレクター

令和2年 現職



大臣官房総務課課長補佐(審査担当)

大部 沙絵子 (15年目)
Obu Saeko

平成18年 採用
大臣官房政府広報室企画担当主査付

平成19年 大臣官房総務課審査第1係
平成21年 行政官長期在外研究員
(ジョージタウン大学)

平成23年 政策統括官(沖縄政策担当)付
参事官(総括担当)付
企画調整第1担当主査

平成25年 政策統括官(共生社会政策担当)付
参事官(青年国際交流担当)付
参事官補佐(国際企画担当)

平成27年 復興庁宮城復興局
平成29年 大臣官房公文書管理課課長補佐
令和元年 現職

世の中の動きにアンテナを張る

経済財政運営担当では、デフレ脱却などの時々の政策課題に応じた経済政策を推進するため、「経済財政運営と改革の基本方針」(骨太方針)や経済対策、「予算編成の基本方針」、「経済見通しと経済財政運営の基本的態度」(政府経済見通し)などの策定を行っています。経済情勢や政策課題に応じて、柔軟・機動的に政策対応を行う必要があるため、世の中の動きに対して常にアンテナを張り、スピーディーに取り組む必要のある仕事です。

現在のポストに至るまで、こうしたマクロ政策運営のみならず、経済財政白書の執筆などの調査・分析、GDP統計の作成、法案担当や、他省庁・海外への出向など、様々な業務を経験しました。それぞれの仕事に思い入れがありますが、いずれも自分を成長させ、今の私につながっています。

こだわりを持って成し遂げる

入府した当初は、社会人・国家公務員としての基礎を徹底して習得した日々でした。国会対応、法令協議、予算・機構定員要求など、政策決定の基礎的な流れを学ぶとともに、相手にわかりやすい伝え方、報告・説明の適切なタイミングなど、円滑に仕事を進めるために心がけるべき点を多く学びました。経済社会システム担当

に在籍した当時、先輩から「雑務と思える仕事で手を抜く人は、重要な仕事も雑な人が多い」と言われた言葉を覚えています。どんな仕事であっても、自分が携わる意味を考え、こだわりを持って成し遂げる、今でも私が大切にしている姿勢の一つです。

政策の影響を受ける側の視点に立つ係長になるにつれ、政策決定の中身に携わる仕事が増えました。例えば企業再生支援機構担当室では、地域経済を支える企業の再生を通じて、どのように地域一帯の面的再生につなげるかについて、全国の商工会や地方銀行の方などとひざ詰めで議論を行いました。はじめから答えを決め付けるのではなく、関係者の方々から丁寧に話を聞き、そこから得られたヒントに基づいて案を練り直す、その繰り返しによって実効性のある政策に近づけていくことが求められました。当時の上司は「たぐり寄せ」という言葉で表していましたが、常に制度・政策の影響を受ける方々の視点に立ち、自らの仮説を何度も検証し続けることが、最良の答えへの近道なのではないかと思います。

チームのパフォーマンスを向上させる

課長補佐になると、自分にとどまらず、全体を見回す視点が求められるようになります。例えば経済財政白書を執筆する際、ど



れだけ仕事ができる人であっても1人で書き切るには限界があります。例えて言うならば、2倍の能力を持つ人がすべて1人で担うより、0.8倍の能力しか持たない3人であっても、全員が力を発揮することでパフォーマンスの向上につなげることができます。そのためには、日頃からメンバー間で問題意識の共有を図り、議論を重ねることで、一人一人が良いアイデアを引き出すことのできる環境を、率先して整えることが重要となります。こうした日々の取組が、結果として中身の濃い調査・分析の実現につながります。

一つ一つの“点”とも言える経験の積み重ねが、全体として“線”や“面”となって、今の私があります。いまだに部署異動する度に見えてくる世界は変わり、新たな自分を発見する日々の連続です。皆さんとともに成長し続け、刺激し合うことのできる日を楽しみにしています。

留学で学んだことを公務に活かす

2年目に総務課審査係に配属され、法令その他の各種文章の審査に携わりました。内閣府は幅広い分野を所掌しており、様々な政策の内容を必死に勉強しながら、必要な施策を実現できる条文になっているかという審査に取り組みました。事務次官をはじめとする幹部に決裁文書を説明する機会もあり、わかりやすく説明するためには事前準備が重要ということに気付かされました。その後、アメリカのロースクールで2年間留学する機会を与えられ、消費者法等の米国連邦法を学びました。この時の前例(判例)をしっかり調べ、現在の案件との共通点と違いを考察し、基本的な考え方を発見し、応用するといった手法はその後の法令や施策の企画立案に大きく役立っています。

組織として物事を進める難しさ面白さ

6年目の係長の時に沖縄担当として、10年に1度の沖縄振興特別措置法の改正時期に当たり、一括交付金制度の創設などにチームの一員として関わることができました。沖縄部局、関係省庁、県・市町村など多くの関係者により実現した法改正であり、組織として物事を進めていく難しさ面白さを学びました。内閣府に入る前は

特に関心がなかった沖縄振興について、歴史や関係者の思いを知り、自分なりにその重要性を考える機会になりました。

「現場」に近い業務

参事官補佐となり担当した青年国際交流は、内閣府では数少ない「現場」に近い業務。私の仕事は主に予算要求に向けた事業の組み立てや成果の評価でしたが、事業が参加者にダイレクトに影響を与えていくのを間近に見られたのはとても良い経験となりました。同時に、人材育成のような事業の効果を数字で測るのは難しく、参加者、引いては国全体にメリットがあるので今後も事業を継続・拡大するべきという主張を裏付ける証拠集めに非常に苦労しました。施策に関係する国際会議に参加する機会もあり、特にアジア各国の志の高い官僚らに出会って大きな刺激を受けました。

霞が関とは異なる価値観や発想

10年目の時に、留学以外に内閣府の庁舎の外で働いた経験がなかったので、地方での勤務を希望したところ、復興庁の出先である宮城復興局への出向が叶いました。復興局は各省の出先機関で採用された職員や民間から出向してきた職員の混成部隊で、霞が関とは異なる価値観や発想にあふれており、自分の思考の

幅の狭さに気づかされました。被災地を回り、県・市町村の職員はもちろん、事業者の方々や直接お話しして、中央省庁での施策の規模と比べれば小さいながらも、できる取組を一つずつ積み重ねていくことに大きなやりがいを感じました。

常に筋道の立った説明を行うために

現在、係員時代以来、およそ10年ぶりに課長補佐として総務課審査係に戻ってきて、さらに幅広くなった内閣府の所掌に悪戦苦闘しながら法令審査に取り組んでいます。政策を理解した上で誤りを見逃さないよう丁寧に審査するという基本は変わっていないと思いますが、総務課は内閣府全体のチェック機関の一種だと考えているので、一つの角度から見た判断で失敗することのないよう、様々な視点からの懸念材料を提供するよう心掛けています。幅広い所掌と数年ごとの人事異動の中で難しい課題ではありますが、内閣府における法令の専門担当部署として、常に筋道の立った説明を行えるよう、知識と能力を磨いていきたいと考えています。

